

2026(令和8)年4月17日

～寛永行幸から400年～
当時の「東海道五十七次」の世界観を描いた
浮世絵タッチのラッピング電車を4月29日(水・祝)より運行開始！

京阪ホールディングス株式会社(本社：大阪市中央区、社長：平川良浩)と京阪電気鉄道株式会社(本社：大阪府枚方市、社長：井上欣也)は、2017年に開始した水之路キャンペーン「京阪沿線の街道・宿場町」や2018年より展開している「～京阪沿線魅力再発見～ぶらり街道めぐり～」を発展させ、京阪沿線に広がる宿場町に着目した「東海道五十七次」を巡るキャンペーンを2026年3月19日(木)より実施しています。

本年は、徳川将軍が天皇を二条城に招き、戦国時代の終焉と平和の到来を世に告げた出来事である「寛永行幸」から400年の節目にあたりますが、徳川家や大名らが一斉に入洛したこの寛永行幸は、東海道五十七次がこの時代に改めて整備されることになった一つの契機であったと考えられます。

本年度、京都では寛永行幸を契機に日本の文化の礎となる寛永文化が開花したことを記念し、寛永行幸四百年祭が開催されます。

これを記念し、当時の「東海道五十七次」の世界観を鮮やかに描いたラッピング電車を運行します。車体デザインには、日本画の技法を基に「現代と昔が入り混じる世界」を浮世絵タッチで描くイラストレーター・武藤文昭氏を起用しました。通勤・通学や旅のひとときを、江戸時代の街道歩き的情绪と現代の感性が融合した、特別な空間へと誘います。

なお、運行開始当日には臨時列車として運行します。

詳細は下記の通りです。

記

1. ラッピング電車の運行について

【運行期間】2026年4月29日(水・祝)～2029年3月末(予定)

【運行区間】京阪本線・鴨東線(淀屋橋駅～出町柳駅間)

中之島線(天満橋駅～中之島駅間)

※通常の定期列車として運行します

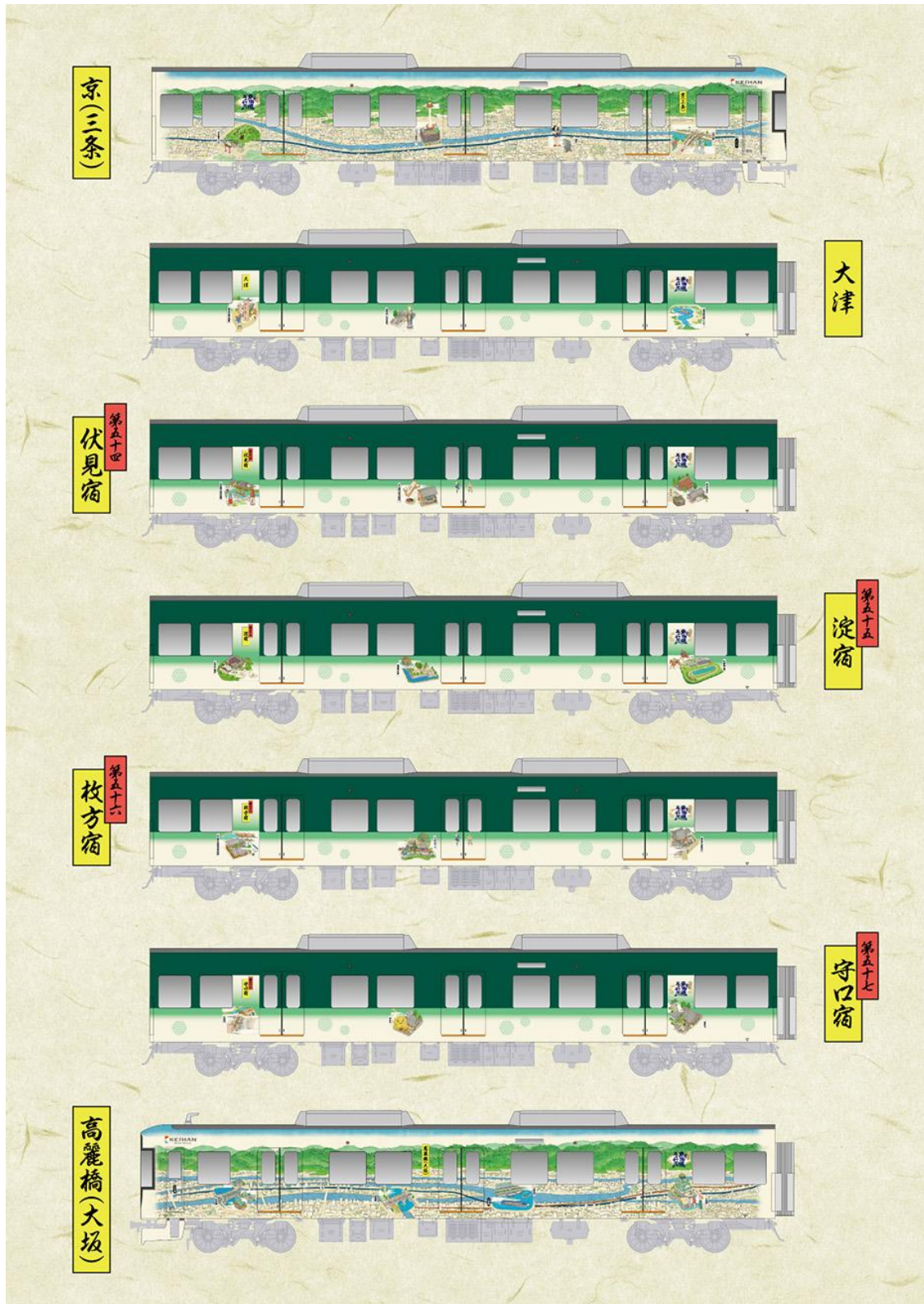
※車両の都合上、運行しない日がございます

【使用車両】13000系車両(7両編成1編成)

【デザイン】コンセプト「現代と昔が入り混じる東海道五十七次の世界」

イラストレーター・武藤文昭氏の手により、かつての宿場町のにぎわいと現代の風景がひとつながりになった、躍動感あふれる浮世絵タッチのデザインです。

ラッピング電車デザイン（イメージ）



2. 臨時列車の運行について

4月29日(水・祝)に枚方市駅発中之島駅行の臨時急行を運転します。

※主な停車駅時刻

駅	枚方市	枚方公園	香里園	寝屋川市	守口市	京橋	天満橋	中之島
時刻	8:36発	8:39発	8:48発	8:51発	8:59発	9:08発	9:11発	9:18着

- ・枚方市駅は5番線から発車します
- ・中之島線内は各駅に停車します
- ・4月29日の運行予定：本臨時列車のみ（当日の通常運用はございません）

<参考> 2026年3月19日(木)からの実施内容

1. パンフレット、ポスター、WEBサイト(<https://www.keihan.co.jp/tokaido57/>)による観光情報の発信
2. 宿場町最寄り駅での特設コーナー設置、スタンプラリーの実施
3. 東海道の歴史や文化を学ぶことができる歴史講座、街道や宿場町をガイドの案内で巡るまち歩き等のイベント開催

▼詳しくはこちら（2026年3月5日リリース）

https://www.keihan.co.jp/corporate/info/release/assets/260305_keihan-holding_s.pdf



【東海道五十七次とは】

一般的に東海道は歌川広重の絵で知られる江戸(日本橋)から京都(三条大橋)までの「五十三次」が有名ですが、幕府の命により、外様大名が参勤交代で洛中を通らないための迂回路が整備されました。東海道五十三次との分岐点である髭茶屋追分(滋賀県大津市)から伏見宿・淀宿・枚方宿・守口宿の4つの宿場を通り、大坂・高麗橋へと至るこのルートは「東海道五十七次」と呼ばれ、これらをつなぐ街道は「京街道」の名で現在も親しまれています。京阪電車はこの京街道沿いに敷設され、現在も当時の面影を感じることができます。

【寛永行幸とは】

1626（寛永3）年に徳川将軍が天皇を二条城に招き、5日間に渡ってもてなした出来事です。豊臣家滅亡から11年後という時期に行われたこの行幸は、天皇と将軍の融和と平和な時代の到来を世に広く示す象徴的な出来事となりました。期間中は、善美を尽くした座敷飾りや豪華な料理に加え、舞楽、能楽、和歌、管弦といった最上級のもてなしが繰り広げられました。この行幸を通じてのちの日本文化に大きな影響をもたらす「寛永文化」が開いたと言われています。

以 上